この日より争議団救援部は会田署に糧食の配給を開始す。争議団の要求は固く、闘争意欲は日一日殺気を帯びて行く。
警察側は必死に検挙活動を開始するも田中八次郎は依然所在不明。

五月十日

午前十時陸軍大臣の前に問題を提示し、陸軍省の責任問題に発展せしむべく、陳情の形式を執って、会沢祥、会東伊、神田文之、瀬野勇次の四名は争議団代表として十六師団偕行社へ午前八時四十分揃って参謀の案内で陸相を訪問す。
午前十時三十分、陸相は御田管下の情況聴取中との理由で、陸相秘書柳利少佐代って代表と会見の上、賃銀問題は請負契約者間の問題故、直接陸軍省としてはどうにも出来ないが、問題は陸軍省所管の工事だから帰京と同時に火工廠々長を通じて元請の森田組を追究せしめて、一刻も早く解決せしむるやう努力する旨〃を表明す。
陸相は争議団代表との会見をさけたが、御田長を通じて火薬製造所長今村中佐を呼びよせ問題の経過を聴取の上、陸相を訪問して善後策を協議す。
この日争議団では、代表が偕行社へ陸相を訪問してゐる同時刻に、約八十名のデモ隊を組織し、醍醐署目指して一里八十町のデモを敢行、途中で署長が五ケ庄駐在所に居るといふ情報に接し、直ちに駐在所へ方向を変へ、遂に駐在所を包囲し署長を中心に代々に〃米を心配しろ〃〃飯をくわせ〃と絶叫し、約一時間余に亘つてもみ合ひ、署長は遂に〃村長と米の相談をする〃旨を約し、一応の検束者も出さずに引き上げた。

五月十八日

東京に於て、陸軍省火工廠監督部は森田組代表を呼んで争議の解決方を追究す。（これは争議解決後森田組代表の語つた談話である）
争議団の要求貫徹は強固で、附近一帯は争議団のテロ化の流言に戦慄し、ブル新聞は軍隊出動又々の記事を麗々しく大書す。
田中八次郎依然逮捕されず。
争議団本部に於て、神田、佐々木、走村の三幹部の大対策委員会を開催し、今後に於ける闘争方針に就て協議した結果、左の方針を決定す。

(一)十八日中まで逃走中の請負責任者の逮捕を待ち、それまでは秩序ある行動を執る事。
この期間中は食糧問題を中心に、警察当局、村当局へ大衆的運動を行ふ事。

(二)十三日中に請負者との会見が出来なければ、組長の誠意も無きものとして積極的行動に出る事

(三)積極的行動の第一歩として、闘争の相手を元請の森田組とし、十四日に森田組大阪支店長へ交渉に行く事

(四)十四日森田組代表との会見で要領を得ない場合は、飢餓行進隊を組織し、会員徒歩で森田組大阪支店へ交渉に押しかけ、尚そこで要領を得なければ、更に百名の飢餓行進隊を選抜して、徒歩、野宿で広島市の森田組本店へ交渉に押しかける事。

右争議団本部に於ける闘争方針の決定を知つた警察は極度に狼狽したる